

第50回 日本毒性学会学術年会にて、ポスター発表、企業展示を行います。
ぜひ、お立ち寄りください。

《ポスター発表》 6/21[Wed]13:15-14:00

ポスター番号：P3-280

ウシ角膜を用いる混濁度および透過性 (BCOP) 試験法への病理組織検査組み込みの提案 -化学物質への適用例-

安彦 由喜恵¹⁾、榊原 隆史¹⁾、越田 美¹⁾、古川 桂子¹⁾、松井 豊¹⁾、小島 肇²⁾

¹⁾ 株式会社化合物安全性研究所、²⁾ 国立医薬品食品衛生研究所

【序論】 BCOP試験法は、眼刺激性の検出のため、汎用される代替法である。OECD TG437によれば、IVIS (*in vitro* 刺激性スコア) により、「IVIS \leq 3 : UN GHS区分なし」または「IVIS $>$ 55 : UN GHS区分1」の判定が可能である。一方で、 $3 < \text{IVIS} \leq 55$ である物質は、「予測できない」と判定される。今回、我々はIVISでは「予測できない」物質に詳細な情報を付与するため、病理組織検査との併用を提案する。

【目的】 BCOP試験法において、IVISと病理組織検査を”併用すること”の有用性を検討した。

【材料および方法】 UN GHS分類が判明している64物質 (物性は液体および固体) をウシ角膜に適用し、IVISを測定し、 $3 < \text{IVIS} \leq 55$ で「予測できない」と分類された30物質については、さらに病理組織検査を行った。

【結果】 病理組織評価により、「予測できない」に分類された30物質中13物質をUN GHS区分2として正確に分類できた。また、UN GHS区分なしへの分類が6物質で可能になった。

《企業展示》 ブースNo.39

化安研は、非臨床および臨床試験の受託を行っているCROです。これまでに培ってきた経験をもとに、医薬品・医療機器・再生医療等製品など各種モダリティの開発における、非臨床試験から臨床試験までをワンストップサポートする体制を構築しています。コストを抑えながらも、質の高いサービスをご提案させていただきます。



～非臨床試験から臨床試験までワンストップサポート～



株式会社 化合物安全性研究所

<http://www.ka-anken.co.jp/>



有益で安全な、生命関連製品の迅速なる上市と普及に寄与し、人々の健康と豊かな生活に貢献する試験受託機関です

【札幌本社/研究所】 〒004-0839 札幌市清田区真栄363番24

TEL:011-885-5031 FAX:011-885-5313

【東京事務所】 〒130-0022 東京都墨田区江東橋4-29-12

TEL:03-6666-9247 FAX:03-6666-9257

あいおいニッセイ同和損保錦糸町ビル6階